



もしも、1日に電気を1時間しか使えなかったら？



準備するもの



えんぴつ



消しゴム



色えんぴつ



時間と難易度

1年生	25～35分	★ ★ ★
2年生	20～30分	★ ★ ★
3年生	20～30分	★ ★ ☆

あそびの概要

世界には電気を使えない人が約10人に1人います(※)。「もしも、1日に電気を1時間しか使えなかったら？」という状況を想像してみましょう。いつも当たり前のように使っているものも、電気がなくては使えないものが多いことや、エネルギーの大切さに気づきます。

※国連広報センター「SDGs報告2021」より

7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに



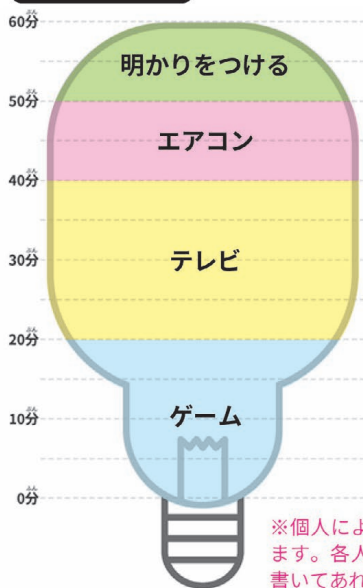
SDGsの芽

目標7

「エネルギーをみんなに
そしてクリーンに」に
根差した取り組みです。

1

取り組み例



取り組みのポイント

- 「電気を1日1時間しか使えない」としたら何をしたいか、よく考える。「自分がしたいもの」「家族のために使うもの」「生活のために欠かせないもの」などがあることを確認する。
- 例を参考に、使うものの名前を記入し、わかりやすく線を引いたり色を塗ったりする。
- 普段何気なく使っているものの中には、電気が必要なものが多く、電気が使えないと困ることに気づかせる。

2

取り組み例

もし電気が作れなくなって、
電気が使えなくなったら？
きみの気持ちと同じマークに
好きな色をぬろう。

こまる



こまらない



取り組みのポイント

- 日本の電気は主に石油や石炭などの化石燃料を燃やしてつくっているが、化石燃料には限りがある。
- 電気が使えないと、普段の生活だけでなく、他にどんなことに影響が出るかを想像してみる。
- 太陽光、風力、地熱、水力、潮力、バイオマスといった、使っても減らず、二酸化炭素を排出しない地球環境に優しい再生可能エネルギーに注目してみる。



SDGsの気づき

エネルギーは無限ではないので、誰もが電気を使えるように、省エネを心がけよう。安定して使える再生可能エネルギーにも注目する。

終わりの声かけ

終わったら、「チャレンジカード」に記録しよう！